

丹波地域のホトケドジョウを守る会の活動

生息地の造成と改善



生息地では雨による増水で個体が流されたり、土砂の流入によって陸地化が進んだりして生息環境が大きく変動します。ホトケドジョウが安心して生活できるように、個体の流出を防ぐための土木作業など、生息環境の改善を行っています。



普及啓発活動

小学校などで、環境学習の一環としてホトケドジョウの飼育をして頂いているほか、2017年には柏原高校生物部も調査活動に加わっています。また、地域の方々や学生を対象にホトケドジョウの観察会や講演会を実施したり、チラシを配布して目撃情報の収集などを行っています。ホトケドジョウの現状について理解して頂き、ホトケドジョウが丹波地域の環境保全のシンボルとして、地域全体で保全活動に取り組むことができるように努めています。



ホトケドジョウを見つけたら!?

丹波地域には2種類のホトケドジョウが生息しています。これまで6箇所で生息が確認されていますが、まだ他の場所にも生息している可能性があります。「ホトケドジョウを見たことがある」「ホトケドジョウを発見した!」などの情報があれば、ぜひご連絡ください。

ホトケドジョウ *Lefua echigonia*



ナガレホトケドジョウ *Lefua torrentis*



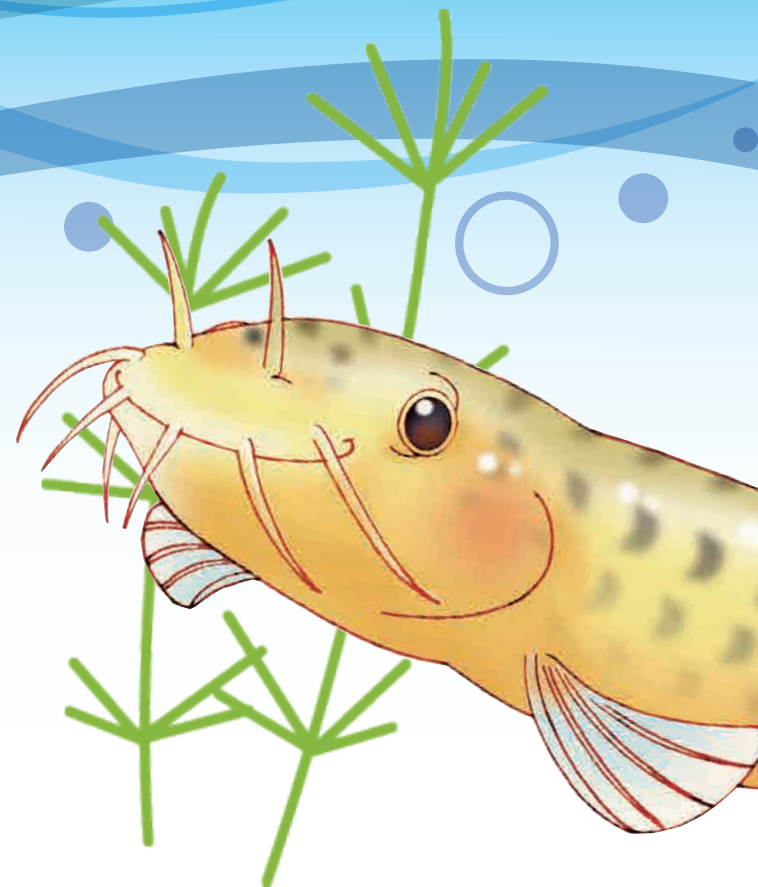
2018年8月に新種になりました。模式産地は丹波市です。
(新種になり、新しい学名がついた時に、その基礎になった 標本の産地)

丹波地域のホトケドジョウを守る会 入会案内

丹波地域からホトケドジョウが絶滅しないように、保護活動に取り組んでみませんか? 私たちと一緒に保護活動に取り組んで頂ける方を募集しています! どうぞお気軽にお問い合わせください。

ホトケドジョウ

みんなで守ろう!
丹波の宝物



丹波地域のホトケドジョウを守る会

ホトケドジョウ

レフア エチゴニア
学名：*Lefua echigonia*

ぜつめつきくしゅ
環境省レッドリスト：絶滅危惧種ⅠB類（EN）
兵庫県版レッドリスト：Aランク



ホトケドジョウって？

ホトケドジョウは日本の固有種で、青森県を除く東北以南の本州に生息し、兵庫県丹波市の加古川水系が最も西側に位置します。

成長すると全体は約6cm、口ひげが4対8本、からだ全体に小さい暗色点があります。湧水周辺の水草が生い茂る湿地や、流れの緩やかな小川などに生息しています。川底や泥には潜らず、水草や石の間をゆっくり泳ぎながら、水生昆虫や藻類などを食べます。産卵期は3～6月で、水草や枯葉に産みつけます。1～2日で孵化した赤ちゃんは、動物プランクトンなどを食べて大きくなります。



ホトケドジョウの生息の現状

時代の流れと共に土地開発などが進み、人々にとってはとても住みやすい環境となりました。しかしその結果、湧水は枯れてしまい、ホトケドジョウの生活できる自然環境がどんどん失われています。現在、兵庫県内では、丹波地域の6箇所でしか生息が確認されていません。

全国的にも個体数が減少していて、このままでは絶滅してしまう恐れもあるのです。



ホトケドジョウの生息地



丹波地域にホトケドジョウが残っているのはなぜだろう？

これまでホトケドジョウの確認した場所した場所はいずれも湧水と関係しています。源流付近の水温は、夏の最高記録でも16℃ととても冷たいのです。丹波地域には湧水がたくさんあり、ホトケドジョウにとってとても生活しやすい環境であったからかもしれません。

丹波地域には、いまだに人の手が入っていない自然にあふれた原風景が存在し、湧水も豊富でとても豊かな環境に恵まれています。



湧水

丹波地域のホトケドジョウを守る会の活動

2006年に、愛嬌のあるホトケドジョウの姿に惚れ込んだ有志が集結して「丹波地域のホトケドジョウを守る会」を結成し、ホトケドジョウについて調査・保護する活動をスタートさせました。貴重なホトケドジョウを絶滅の危機から救うため、雨にも負けず、風にも負けず、年中休まず活動を続けています。

2012年には須磨海浜水族園と協働で生体調査や保全活動にも取り組んでいます。

フィールド調査 活動内容



生息環境調査
(個体数調査・水質調査)

稚魚の目視検査

新たな生息地と
※危険分散候補地の探索

※危険分散地：現在の生息地と同じ環境条件の揃う場所があれば、ホトケドジョウの一部を放流することで、局所的な絶滅を防ぐことができます。

現在、2ヶ所の危険分散を設置しております。



調査風景

